

2014年 予想とポイント

昭和大学Ⅱ期

【英語】

最新6年間の出題傾向

まず、言えることは毎年問題傾向を微妙に変化させている点があげられる。問題用紙をもらったら、まず全体的に見てどのような問題で構成されているか確認することが最も重要である。

発音、アクセント問題

2009年から2011年の3年間は発音、2012と2013年はアクセント問題が出題されているためどちらが出題されてもいいように心の準備をしておく必要がある。ただし、2014年には出題されていないため、全く出題されない可能性もあるだろう。

整序英作問題

ほぼ毎年出ているため、間違いなく出題されるだろう。しかし、2009年のように不足単語1語を補う形式の場合はかなり難しくなり、時間配分にも影響するためもし出題されたら気をつけるべきだろう。

長文問題

長文問題も1番と最終問題で2題出題されたり、1題の年度もある。2013年のようなパラグラフリーディングの形式の出題も見られる。長文が1題か2題なのかを確認することは大切な要素となるだろう。また、その中に記述問題があるかどうか確認することも重要なことだろう。急に問題が激変する可能性も十分あるだろうと思う。

<2014年から過去3年の出題形式>

	2014年	2013年	2012年
1番	空所補充 10題	アクセント問題 5題	アクセント問題 5題
2番	整序英作 5題	空所補充 8題 7番と8番は文の 中に2ヶ所入れる	空所補充 10題
3番	文法問題 5題 <u>誤りを正す問題</u>	整序英作 5題	長文問題 T、Fの内容一致 7題
4番	会話問題 7題	長文問題 パラグラフ リーディング形式	整序英作 5題
5番	長文問題 問題6題		長文問題 <u>問4, 5は記述問題</u>

<2011年から過去3年の出題形式>

	2011年	2010年	2009年
1番	<p>長文問題 20字以内の 日本語で記述含む</p>	<p>長文問題 T、Fの内容一致 7題</p>	<p>長文問題</p>
2番	<p>発音問題 5題</p>	<p>発音問題 5題</p>	<p>発音問題 5題</p>
3番	<p>空所補充 10題</p>	<p>空所補充 10題</p>	<p>空所補充 10題</p>
4番	<p>整序英作 4題</p>	<p>整序英作 4題</p>	<p>不足単語1語を補って 整序英作 5題</p>
5番	<p>空所補充 5題</p>	<p>会話問題 4題</p>	<p>会話問題 5題</p>
6番	<p>会話問題 5題</p>	<p>長文問題 長文の内容理解 5題</p>	<p>長文問題 内容の一致している ものを5つ選ぶ</p>